一般社団法人 国際幼児教育振興協会　機関誌

ひこばえ

〒 182-0023　東京都調布市染地 3-1-866
TEL：042-486-6776
URL：http://www.child-ed.com/

親と先生は人生の水先案内人

東京理科大学教授　秋山　仁

私の人生に一番大きな影響を与えたであろう人物は、幼少の頃に出会った岡宏子先生であろう。岡先生は児童心理学の大家（聖心女子大学教授）で、先生との出会いは私というよりむしろ母に大きな力を与えてくれた。

幼少の頃の私は、とてつもない“キカナイ”子供で、随分母親を手こずらせたらしい。嫌いなことは一切やらず、好きなことだけに没頭する。当時武蔵境に住んでいたのだが、くぬぎ林や小川の中をターザンのように駆けめぐり、犬や山羊を子分のように引き連れて、あたかも世界は自分を中心に廻っているかの如くふるまっていたらしい。勉強は嫌いだったが、人から指導されたり、注意されたり、束縛されるのを特に嫌がった。一歳になるかならないぐらいの頃、私の頬に止まった蚊を母が叩いた時、事情がわからない私は母に腹を立てて、どんなにあやそうとしても、プイと横を向いていたこともあったという。靴や靴下を履いたり、服をキチンと着たりするのも嫌いで、大体は上半身裸に裸足で、そこら中を徘徊していたそうだ（次ページ写真：前列中央）。

夏などは、夜が明けるとともに跳び起き、トリモチや網をかかえて近くの森にカブトムシやクワガタを捕りに出掛けた。昆虫や亀、カエルや小鳥が大好きで部屋に連れて来ていたので、母の叫び声を聴くのは常だった。

兄姉たちは従順でおとなしかったので、３歳、４歳と大きくなるにつれ、ますます暴挙を繰り返す私を母は大そう心配した。ある時、そんな私の将来を案じて、母が友人に相談を持ちかけた。すると、母は友人たちから、「親の言うことをほとんど聞かず、ダラしないのは、知能の発達の遅れによるものかもしれない。早く専門家に相談して適切な治療をしたほうがいい」と忠告され、早速、色々なツテを辿り、発達心理学の大家の診断を仰ぐことに相成った。

当日、私は突然、革靴に帽子、新調した子供服を着せられて迷子にならぬよう母にしっかりと手をつながれて電車に乗った。電車の中で母は、「今日は、お前の将来にとってとても大切な日だから、先生から良く思われるように行儀正しくお利口そうにしなさい。」と言い含められた。そして、電車の中で何度もお辞儀の練習をさせられた。

岡先生の研究室に辿り着くや否や、私は革靴と靴下を脱ぎ、シャツも脱いでしまったそうだ。先生から沢山質問されたが、興が乗らないので、「わからない」、「知らない」を連発したという。母の心、子知らずである。

蘖　この難しい漢字は“ひこばえ”と読みます。大辞林によると「孫（ひこ）生え」の意で、樹木の切り株や根元から群がり生える若芽のことです。

世界各地で活躍される日本人のひこばえたちが、日本とは異なる文化、歴史、環境の中で、すくすくと育ち、世界中の人々から信頼される人材に成長することを願って、当法人の機関誌のタイトルにいたしました。　秋山　仁

この時の出来事の詳細を、四十数年後に岡先生と御一緒したシンポジウムで、先生が次のように語られている。
『実は、秋山さんと私は、彼が５歳になるちょっと前に、知恵遅れと言われて、聖心女子大学に勤めていた私のところに、知能検査に来た時からの付き合いなんです。その頃は、うりざね顔で真っ白なお顔にピンクのほっぺたで、かわいい坊やだったんですよ（笑）。ところが、着た途端に靴を脱いじゃう。そして、知能検査を始めたら、気に入らないことは何も聞いていないんです。ところが、これは面白いなと思ったら途端に、目の輝きが変わって来るんですね。それで、私は彼は遅れはないと診断し、規則で縛らないで生徒の個性を尊重してくれる小学校に入れなさい、ということをお母様にアドバイスしました。』

かくして私は、それまでほど口うるさく言われることもなくなり、両親の愛情を有り難く感じながら、自由奔放に生きてこられたのではないかと思う。

幼稚園の先生は、人生で出会う親以外の最初の大人であるが、私は、また、私の母は岡先生に幼少の頃に出会えたことを大変幸せに思っている。（本協会理事）

パリ在住の幼児の生活

野本　智子

私は、現在、パリの郊外で、６歳の娘とフランス人の夫と暮らしています。日々、娘が二か国語環境で成長する経験を目のあたりにしています。また、私は、パリにある自閉症児のための特別支援学校に勤め、治療教育にあたっています。

娘は、これまで、公立の保育園に０歳から４歳まで、保育学校に４歳から６歳まで通ってきました。今は、保育学校の年長クラスに在籍し、９月から、小学校に進学します。保育学校と並行して、この３年間は、パリの日本人幼稚園に毎週水曜日、通園しています。

夫とは、フランス語で話していますが、娘とは、私の心からの言葉で話したいと思い、日本語で話してきました。でも、保育園の時は、私が夜、「ねんね。」と言っても 娘は、≪ dodo ≫とフランス語で話していました。私とも、娘が日本語で話すのは難しいことを痛感しました。ある日、私が娘に日本語で話しているのが、保育園の先生達にわからないので、フランス語で話してほしいと言われ、残念に思ったことがありました。私は、娘との言葉は日本語で、先生達のために変えることは難しいこと、私が娘にフランス語で話すのはしっくりこないこと、必要があれば、私が先生にフランス語で同じことを話すことをお話ししました。また、娘が話し始めた時、日本語も混ざっていたので、先生方が理解したいと言って下さって、娘の日本の言葉の一覧表を作ったことは、とても嬉しく思いました。

そして、２歳半までは、娘は、日本語を理解しても、主にフランス語で話していました。夏に１か月日本で過ごしてからは、急に日本語で話すようになりました。日本でいろいろな人に会ったのが良い刺激になったようです。それで、私も面白くなってきました。時々、娘がフランス語で話すと、「フランス語では分からないから、日本語で話して。」と言うようしたところ、娘は、いつも私と日本語で話すようになりました。最近は、夫に私と話したことをフランス語に直して話すようになりました。

日本の幼稚園では、友達と日本語で話すのを楽しんでいます。少しおかしな日本語ではあるのですが…。先日は、先生から、娘が「パパが、ぶうぶう、言っていたよ。」と話していたと聞き、私から聞いて覚えた言葉に違いないと言われてしまいました。私の言葉遣いも気をつけなくてはと思いました。また、クラスでは、皆一緒に歌、ダンス、制作、季節の行事など日本の文化に触れる活動ができるのが嬉しいようです。ちなみに、フランスの学校では、小グループで活動をすることが多く、全員一緒に活動することは少ないです。また、さまざまな文化の子ども達がいます。

幼稚園では、１年前から、お迎え前の１時間半、日本人の先生のピアノのクラスと公文をやっています。二つとも毎日、練習するのは、

初めは大変でしたが、今は習慣となりました。そのお陰で、今は、娘の読み書きは、日本語が先行しています。フランスの小学校に入ると、すぐに逆転すると思いますが。

家では、日本の絵本やビデオも見ていますが、情報が限られています。最近は、街の図書館で、フランス語に訳された日本の絵本やDVDを見つけては、借りてきています。

これからも、娘が、フランスとともに日本語と日本の文化を吸収して、日本がアイデンティティの1部であり、それを楽しんでいけるようになってほしいと思っています。私も試行錯誤の毎日ですが、私の好きなこと、特に私が日本で好きなことだけは、娘に伝えていけると信じています。

（パリ日本人保育園幼稚園　保護者）

海外日本人幼児教育施設事情

ベルリン日本語補習授業校は、1973年に在留邦人有志によって、当時の西ベルリンに設立された学校です。現在幼稚部には、0歳から6歳までの子どもが80名在籍し、週に一度日本語学習に通って来ています。0、1歳児の親子クラスでは、日本の手遊び歌、わらべ歌などを皆で楽しみ、赤ちゃんとお母さん、お父さんが日本語で触れ合う場となっています。2歳児以降は、年齢別のクラスで、折り紙などの工作や季節の歌、昔話、集団遊びなどを通して子ども達が日本語や日本文化を学んでいます。また授業の他に、季節ごとの行事も行っています。先月のお正月会では、羽子板を体験したり、干支にまつわるお話を聞いたり、お餅をついて食べたりしました。初めてお餅を食べた子も沢山いたようです。日本から遠く離れたベルリンで、子ども達に少しでも日本文化を伝えようと、教員、保護者が力を合わせてがんばっています。

（主任　日置泰代）

海外幼児教育施設の現状

在外の幼児教育施設は、毎日開設している施設と日本語補習校として週に1,2回開設している施設とに大別できる。両方合わせて200園程度であるが、年度によって休園したり、私立幼稚園として開設されたりするので、確定的な設置数の把握がむずかしい。26年度は、ヨーロッパ、アジアの一部でメールアドレスが公開されている施設にメールを送り、現状を把握した。

○園児数

在園児の数は、数名の幼稚部、幼稚園から、300名の大規模な幼稚園まで多様であるが、数名から20名程度の施設が多い。最近は、アジア地区に複数の幼稚園が開設されているが、まだ希望者全入に対応できないとのことである。

○保育内容

補習校の幼稚部の場合、日本語の教育が中心であるが、日本文化に触れさせたいとの思いで様々な工夫がされている。一方、毎日保育がある幼稚園では、運動会、表現発表会、ひなまつりなどの季節の行事も行われている。

○保育上困っていること

日本語や日本文化に関する環境を整えるのが難しく、絵本などの入手が困難である。義務教育外であるため、特に日本からの国の補助金はなく、運営に苦労している幼稚部もある。

平成 26 年度事業

（1）海外支援活動

当会では 24 施設に、次のような品物を船便で発送した。全て 1 月上旬までに到着し、大変喜んでいただいている。本会の問い合わせメールが届かない施設も多くあるので、今後も各施設への連絡方法を検討する必要がある。

品物は、12 か月分の月刊絵本、絵本、折紙、絵の具、クレパス、紙芝居、かるた、すごろく、おはじき、サインペン等である。

全園から、感謝のメールをいただいている。

○このたびはすばらしいプレゼントをいただき、園児と一緒に喜んでいます。
○海外の日本人の幼児への健全な成長に目を向けた活動はこれまであまりなかったため、貴団体の設立、活動を大変うれしく思います。
○先生方の活動が広まり、世界中の日本人幼児への力となることをお祈りする
○どれも保育に使えるものばかりで、感謝しています。

品物、送料は会員の会費と寄付でまかなわれたが、レンゴー㈱、㈱ＪＰホールディングスは企業会員として、ぺんてる㈱、㈱フレーベル館、㈱さくらクレパス、カルピス㈱より、物品の提供をいただいた。

（2）研修・研究の実施

・11 月に、東京都台東区のことぶきこども園で、内山浩志氏（昭和大学医学部客員教授）による小児保健、小櫃芳江氏（聖徳大学短期大学部教授）による乳児保育に関する講義を受けた後、保育施設の参観を行い、保育の実際を研修した。
・幼児期の数概念の獲得、日本語の獲得について研究を開始した。事例をとって分析し、指導方法について考察している。

平成 27 年度の事業予定

（1）海外支援活動の拡充

本年度は、アジア、ヨーロッパに加えて、南北アメリカ、アフリカ等にも教材の無料提供を行う予定である。

（2）研修・研究の推進

数、日本語に関する研究会を神戸で開催する。また、日本国内に在住している外国人幼児の保護者を対象に研修会を開催する予定である。

活動に参加しませんか

会員の年会費、寄付はすべて海外に在住する日本人幼児のために使われます。
海外の子どもたちに絵本や折紙をおくりませんか。詳しくは下記に fax でお問い合わせください。

正会員 5,000 円　賛助会員 3,000 円　企業会員 50,000 円以上

国際幼児教育振興協会代表理事　塩　美佐枝　FAX：042-486-6776